

**組織的な大学院教育改革推進プログラム**  
— 「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の取り組み—

神里みどり　玉城清子　當山富士子　野口美和子

沖縄県立看護大学紀要 第12号 (2011) 別刷

報告

## 組織的な大学院教育改革推進プログラム — 「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の取り組み—

神里みどり<sup>1)</sup> 玉城清子<sup>1)</sup> 當山富士子<sup>1)</sup> 野口美和子<sup>1)</sup>

### 要 約

【目的】文部科学省の事業である組織的な大学院教育改革推進プログラム「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の取り組みの概要とこれまでの活動実績を報告し、今後の展開と課題を提示することで、プログラムのさらなる発展へとつなげていく。

【プログラムの概要】本大学の博士前期課程、後期課程に設置されている先端保健看護分野に新たに「島嶼保健看護」の領域を開設する。その領域において、島嶼の地域文化に根ざした看護を基盤として、島嶼地区一体となって問題解決に向けて協働する地域ケア連携、島嶼地区特有の健康問題に関する実践・教育・研究を行う。学生の受け入れは博士前期課程2名、後期課程1名とする。島嶼保健看護領域の新科目は9科目で、そのうち博士前期6科目(島嶼保健看護特論Ⅰ、同演習、同実習、同課題研究、地域文化看護論、多職種地域連携論)、博士後期3科目(島嶼保健看護特論Ⅱ、同特別研究Ⅱ、国際島嶼看護論)である。教育方法は、宮古島に人材育成の拠点を置き、本大学と宮古島教室とをテレビ会議システムで結ぶ遠隔教育と現地指導を取り入れた融合型教育とする。国内外の島嶼地域での実習や太平洋島嶼地域での会議や研修参加による交流活動を通じてグローバルな視点を養う。

【取り組みの実際】平成21・22年度の入学者7名に対してプログラムの実際を展開している。新科目の履修や島嶼地区での教育・研究活動、太平洋島嶼地域での実習や研修、国内外での島嶼看護に焦点を当てた学会での発表や学術交流を通じて、実践指導能力や、教育・研究指導能力を養っている。

【今後の課題】プログラムの3年間の体系的な評価、プログラム終了後の継続や推進、人材育成能力の開発、島嶼看護学の試案の構築に向けて、更なる課題解決の方略を模索していく努力と組織的な取り組みが必要である。

キーワード：島嶼看護、高度実践指導者、人材育成

### I. はじめに

文部科学省は、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育的な取組(Good Practice:略してGP)に対して重点的な支援を行う「組織的な大学院教育改革推進プログラム」事業を展開している<sup>1)</sup>。この事業の目的は、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)及びこれを通じた国際的教育環境の醸成を推進することである。さらに、この事業に採択された取り組みを広く社会に情報提供することで、今後の大学院教育の改善に活用されることが理念の一つとして掲げられている<sup>1)</sup>。

沖縄県立看護大学では、島嶼県沖縄の特徴を活かした大学院での島嶼看護の高度実践指導者の人材育成を目指す目的で、この事業プログラムに応募し、採択をされた(平成20年度大学院教育改革支援プログラム採択：平成21年度から名称変更)。本大学院では平成20年度から平成22年度までの3年間、この事業の助成を受け現在(平成22年度11月)、最終年度の成果報告に向けて、プログラムの目的に沿った活動内容の再確認を行いながらGP推進活動に取り組んでいる。

本稿では、採択された大学院教育プログラム「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の概要とこれまでの活動実績を報告し、今後の展開と課題を提示することで、プログラムのさらなる発展へとつなげていきたい。

### II. プログラムの概要

本プログラム設立の経緯として、沖縄県は39の有人離島を抱えており、県内の島嶼地区で活動する看護職者の育成が求められていることより、県立大学の使命として、島嶼看護の人材育成に寄与していくことは重要である。これまで本学では、学部には島嶼保健看護の科目を設け、教育や実践現場での実習の展開などを行ってきた。しかし、大学院においては島嶼保健看護に特化した教育や体系的な取り組みはなされてきていない。そこで、本プログラムでは、これまでの実践をふまえ、島嶼の看護活動と多職種連携活動を担う高度実践者、実践的教育研究指導者の育成を行うことを目的とした。

#### 1. 島嶼保健看護領域の設立と新科目(図1)

本大学大学院の先端保健看護分野に新たに「島嶼保健看護」の領域をおく。その領域では、島嶼の地域文化に根ざした看護を基盤として、島嶼地区の各職種が一体となって問題解決に向けて協働する地域ケア連携、島嶼地

1)沖縄県立看護大学大学院

区特有の健康問題に関する実践・教育・研究を行う。学生の受け入れは博士前期課程2名、博士後期課程1名とする。博士前期課程の入学者は島嶼地区に勤務する看護職者とする。

島嶼保健看護に関する高度実践者(博士前期課程：以下Mとする)と実践的教育研究指導者(博士後期課程：以下、Dとする)を育成するため9科目を新設する。その科目は、島嶼保健看護特論Ⅰ(M)とⅡ(D)ならびに同演習・実習(M)、同課題研究(M)と特別研究Ⅱ(D)で、専門科目のコア科目として地域文化看護論(M)、また選択科目として多職種地域連携論(M)、国際島嶼看護論(D)である。

## 2. 国内外における島嶼保健看護の学習の場と教育方法(図1)

本プログラムは、宮古島をその人材育成の拠点とする。宮古島における多職種地域連携活動や多職種共同研究を通して現地での指導を行う。また、国内外の島嶼地域での地域文化保健看護に関する課題、ならびに多職種連携・協働に関する現状について調査をしたり、また現地看護職者との交流会や研修会などを行い、それらを学習活動として取り入れる。

講義及び演習は宮古島や本大学の双方において開講し、テレビ会議システムや本大学の遠隔講義システムを使用して遠隔指導と現地指導の双方を取り入れた融合型教育を行う。特に、グループワークを中心としたプロジェクト型の演習や調査を推進することで、多職種連携・協働に必要な能力を養う。課題研究(M)・特別研究Ⅱ(D)は、教員が宮古島に向き、学生の現地における共同研究活動に関わりながら指導する。

## Ⅲ. 現在までの取り組みの現状

プログラムが採択された平成20年度から3年目の平成22年度の前半期までの取り組みの現状を主に本大学院GPの活動報告書(平成20・21年度)<sup>2・7)</sup>を基に、中間の活動実績として報告する。

取組1年目は、プログラムの準備で、入学試験による学生の確保、新科目のシラバス作成、宮古島教室の開所、さらに遠隔通信システムの構築であった。2年目・3年目には入学生を受け入れ、新科目の展開、さらに海外研修や交流、学内外、国内外に向けての情報発信を行ってきた。

### 1. 取組み体制と宮古島教室の開所

新たな領域である島嶼保健看護領域のプログラム開設に向けて、GP推進委員会の組織の下で、大学院GPワー

キンググループを中心に、研究科教務委員会、研究科委員会、ファカルティ・ディベロップメント(以下、FD)専門部会、国際交流室運営委員会と協力体制を組みながら、事業を展開した。

平成21年3月末に宮古病院の一室を借用して、宮古島教室を開所した。テレビ会議システムの導入、通信環境の整備や遠隔講義システムのFD体制を構築し、本大学と宮古島教室との双方向による学習環境を整えた。

### 2. 島嶼保健看護指導体制の構築

島嶼保健看護領域の博士前期・後期課程の9科目のシラバスを作成し、大学院担当教員の専門性を考慮した科目担当の看護教員(教授8)を配置した。講義はオムニバス形式で、大学院の看護系の教員が全員関与することで、組織的な学習支援体制を構築できるように試みた。シラバス作成、教員配置に関しては、大学院研究科教務委員会を中心に、大学院担当教員全員と検討会議を2回設け、プログラム内容に関する検討を行った。それにより組織的な教育・研究体制を構築した。グローバルな視点で国内外の情報を共有できる環境構築のために、シラバスは日本語版と英語版を大学院ホームページ(以下、HP)に掲載して公表した。さらにシラバス冊子を作成して全教員へ配布を行い、シラバス内容の周知に努めた。

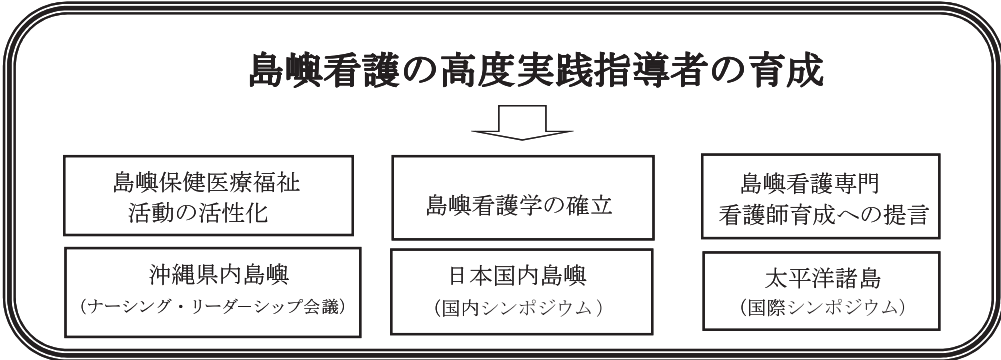
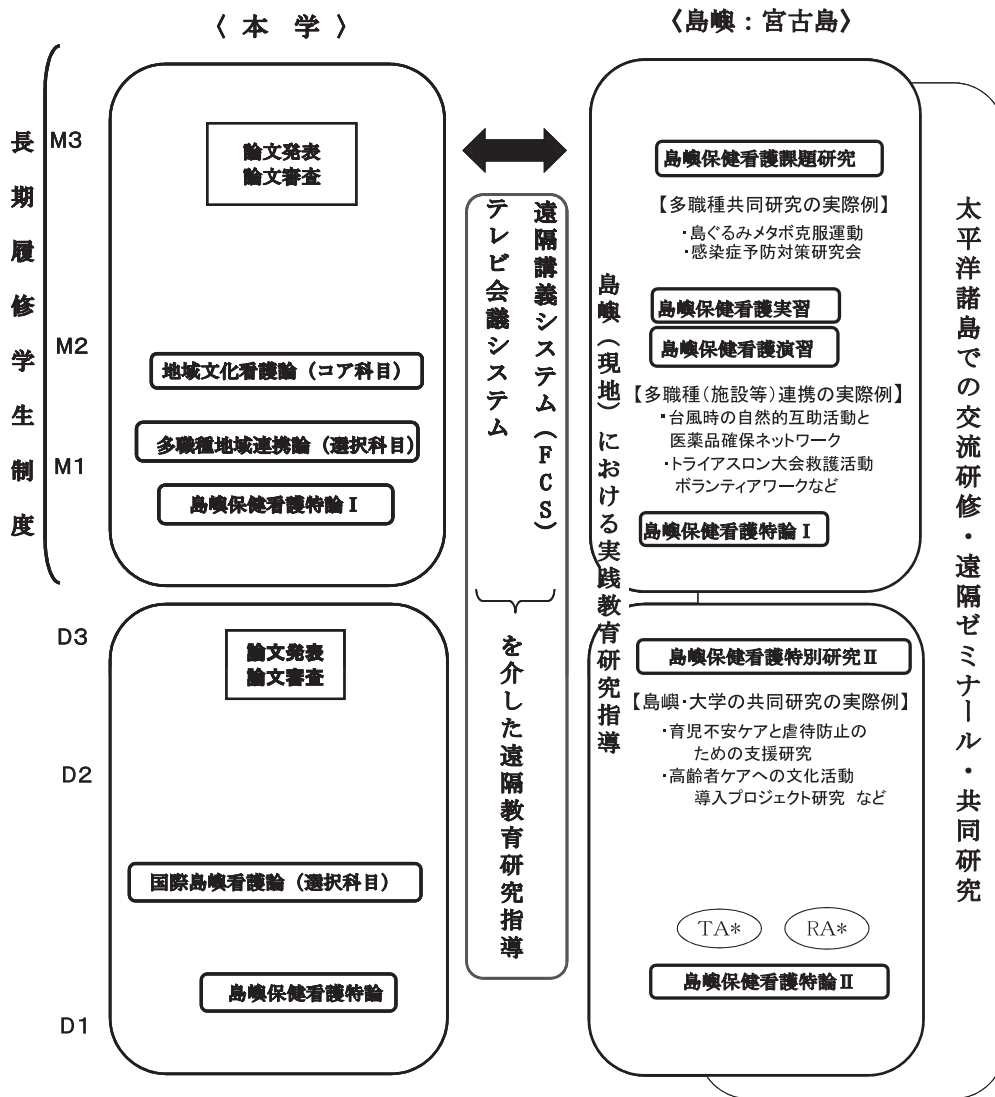
本大学の全教員への島嶼保健看護に関するFD教育として、島嶼保健看護に関する専門の学外講師(県外講師4名、国外講師1)を招聘して、講演会を5回開催した(平成21年12月～3月)。島嶼保健看護のプログラムの開始にあたって、島嶼保健看護に関するFD教育を行うことによって、各教員の島嶼保健看護に関する認識と知識の向上に寄与できたと考えられる。

FD講演会は、学内の教職員だけでなく学外へも幅広く広報し、学内・県内から参加者を募り、大学院教育改革プログラム(島嶼保健看護の育成プログラム)に関する説明を講演会の前に行い、参加者が本プログラムの趣旨を理解できるように努めた。講演会参加者は県内外から377(延べ人数)であった。FD講演会の内容は講演集やDVD録画集として編集し、講演集は本学の全教員・大学院学生並びに科目履修生へ配布し、またHPでも公表した。

### 3. 島嶼保健看護領域に関する入学試験の実施

島嶼保健看護領域に関する入学試験を平成20・21年度(総計2回)に実施した。島嶼保健看護領域の受験者数は前期課程11名、後期課程5名であり、その内、前期課程4名(宮古島在住3名、波照間島在住1)、後期課程3名(本島

図1. 島嶼現地指導と遠隔指導の融合型教育



※Mは前期課程（修士）、Dは後期課程（博士）で、数字は年次を示す。\*TA/RA：ティーチング/リサーチアシスタント

図 2. 組織的な大学院教育改革推進プログラム  
「島嶼看護の高度実践指導者の育成」に関する人材育成能力と評価方法

<沖縄県立看護大学大学院>

保健看護学研究科の人材養成目的

博士前期：広い視野に立って看護における高度なケアの実践や教育のできる専門的能力の育成。又は、学識を深めることによって研究能力を育成

博士後期：看護分野における研究者として自立した研究活動を行うのに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識の育成

<組織的な大学院教育改革推進プログラム：島嶼看護の高度実践指導者の育成>

プログラムの目的

- ・ 島嶼看護の高度な実践ならびに実践的教育研究指導ができる看護指導者の育成
- ・ 島嶼住民の生活文化に根差した看護を実現できる高度な島嶼看護専門能力の育成
- ・ 宮古島を拠点にした島嶼看護学の現地での教育研究指導者の育成
- ・ グローバルな視点で問題を解決できる能力の育成

終了後に期待される人材像

博士前期課程：実践指導・調整能力(保健所・市町村の保健看護分野の責任者、保健医療福祉施設の管理者、ケアコーディネーター、ケア開発者、学部・大学院の現地実習指導者、大学教員との共同研究者など)

博士後期課程：実践教育指導・研究能力(島嶼保健看護学の教育研究指導者、教育研究指導にあたる臨床指導教授など)

博士前期課程における人材育成能力：①実践指導・調整能力

②ケア開発能力

③実践的研究能力

④教育指導能力

⑤研究指導能力

人材育成能力の評価方法

① 自己評価(具体的記述を含む)、自己評価に基づく口頭試問

② 課題研究、特別研究Ⅱによる論文審査と総合科目試験



在住)、総計7名の合格者を決定した。

入学試験や科目履修に関する説明会を宮古島、石垣島、久米島の3つの島で開催し、看護・保健職59名の参加があり、大学院で島嶼看護を学ぶ意識の高さが伺えた。

#### 4. 島嶼看護学教育の実際

入学生7名(博士前期課程4名、博士後期課程3)を対象に島嶼保健看護のプログラムを開始し、宮古島教室と本大学での双方向による遠隔テレビ会議システムを活用した授業と現地指導による授業を展開している。指導体制として担当指導教員以外に指導補助教員の設置、複数指導体制を取り入れている。島嶼関連科目の授業は、週末の土曜日・日曜日に行っている。

島嶼保健看護特論Ⅰ・Ⅱ：本大学の看護系教授8名を中心に国内の非常勤講師2名並びにゲストスピーカー1名を含むオムニバス形式で授業を展開している。各専門領域(母子・小児・成人・老年・精神・地域)における本島と離島、そして本土や海外との健康問題の比較を通して、島嶼地区における健康生活上の課題を解決する方略について多面的に学習できるように構成している。

島嶼保健看護演習・実習：宮古島の地域文化的背景を考慮に入れ、現地の保健医療福祉関係者との多職種地域連携を意識した演習・実習を担当指導教員4名で展開している。6単位の演習のうち、1単位分(1週間)の実習は太平洋島嶼地区(グアム・サイパン・テニアン)で行い、また県内の島嶼地区での実習は、渡名喜島、多良間島、伊良部島の診療所や石垣島などの保健所を中心に実習を展開している。実習計画書は、各学生の関心領域や課題研究のテーマに照らし合わせて各自で作成し、自己の課題を島嶼の実践の場で深め、課題研究へとつなげていけるようにしている。

地域文化看護論、多職種地域連携論：地域文化看護論は、看護系教授2名と学外非常勤講師1名によるオムニバス形式で、地域文化に関する課題を学生に提示し、各学生がフィールドワークを行い、その結果をグループワークで質的帰納的に分類・分析できるような学習方法を取り入れている。さらに、グループワークでまとめた内容を、学会で発表できるように指導し、学術的交流の場でディスカッションできる機会を設けている。

多職種地域連携論は、看護系教授3名と宮古島病院や保健所・福祉関係などの多職種からなるゲストスピーカー10名によるオムニバス形式で授業を展開している。授業内容の一つとして、宮古島で開催されているトライアスロンの行事を通じた多職種地域連携活動で培われた能力を、救急体制時、台風などの災害時に応用していける

ような発展的な多職種連携の在り方を学び、その方略を習得できるようにしている。

国際島嶼看護論：平成21年度は、国内非常勤講師2名並びに国外の太平洋島嶼5カ国\*から6名の非常勤講師を招聘し、オムニバス形式と集中講義形式で授業を展開した。その際、各オムニバスの先生方に公開講演の形で、学内や県内外の保健医療関係者に幅広く参加を呼びかけて講義を開講した。公開講演会(6回)のこれまでの延べ参加人数の総数は、196名(宮古島教室での遠隔参加者49名を含む)であった。これらの講演会を遠隔システムを活用して、本大学から宮古島教室や小浜島などの診療所の看護師へも配信した。さらに、島嶼保健看護領域以外の大学院の学生や教員に、講義参加をオープンにしたり、また招聘講師から専門的知識を得るためのフリーディスカッションの場を設けるなど、太平洋島嶼地域の国々の保健医療看護事情についての情報の共有ならびに学術的交流を行った。平成22年度は、国際シンポジウムで招聘した講師(グアム大学、オーストラリアの大学、日本の大学、テニアン島の看護専門職者)を中心に各太平洋島嶼地域での保健看護上の問題と看護活動ならびにリーダー育成の視点で授業構成を行った。国内外島嶼地域の看護職リーダーと交流することにより、学生がグローバルな視点を身に付けながら国際的な場で共同研究できるような基礎的能力が養えることをねらいとした。

\* (太平洋地区5カ国：グアム、オーストラリア、台湾、ニュージーランド、ハワイ)

課題研究、特別研究Ⅱ：博士前期課程の学生に関しては、特論・演習・実習で得られた知識の統合を通して、宮古島における保健医療看護の課題を明確にさせて、課題研究テーマを絞らせ、研究計画書の立案ができるように支援した。現時点で、博士前期課程2名ならびに博士後期課程1名の学生が、研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を得て研究に着手している。また、博士後期課程の学生の研究推進のために、宮古島病院の看護部と共に「看護部離島支援のための共同開発プロジェクト(仮称)」を立ち上げ支援している。

#### 5. 太平洋諸島との交流

平成21年1月にグアム大学を中心にサイパン・テニアン、3月に台北医学大学看護学部や医療施設の視察と交流を行った。その視察交流に、総勢7名の教員が参加し、アジア太平洋島嶼地域の医療保健看護の現状把握と次年度の実習場確保の検討を行った。アジア太平洋島嶼地域の海外視察の結果から、博士前期課程の実習を計画実施した。さらに、博士後期課程では国際島嶼看護論の非常

勤講師の確保並びに国際的な研究活動の推進のための基盤作りを行った。

平成22年度は、太平洋島嶼地区で開催された会議や学会への参加を通して、島嶼における専門職者との交流を深め、情報交換をしながら研修計画を立案した。さらに、教員や学生が会議や学会に参加することにより、そこで大学院GPの情報を発信し、太平洋島嶼地区の看護職との信頼関係の構築と、島嶼看護に関する学際的な交流を行った。

第31・32回American Pacific Nursing Leaders Council Conferenceへの参加：サイパン(第31回)やパラオ(第32回)で開催された太平洋諸島看護リーダー会議に大学院学生5名と教員3(延べ人数)が参加し、ミクロネシア諸島などの太平洋の10の島々との看護職リーダーと交流を深めた。各諸島の特徴と保健看護に関する課題を理解し共有することでグローバルな視点を養うことができたと考えている。

第27回Annual National CRANaplus Conferenceと豪州でのリモート看護大学院教育の研修への参加：平成21年度に豪州における第27回遠隔看護学会に教員が参加し、遠隔看護教育に関する学術的交流を行い、国際島嶼看護論の非常勤講師や国際シンポジウムの招聘講師選定のための情報収集などを行った。学会に参加することで、遠隔看護に関する専門的な知識を得ることができ、今後の島嶼看護の概念を構築していく上で参考になった。平成22年度は、国際島嶼看護論の一環として博士後期課程の学生が自己の関心課題に沿った豪州での研修を計画し、CRANAの学会で交流を深めたリモート看護のスペシャリストの教授の指導を受けた。これは自ら研修計画を立てて、実際に国内外の島嶼関連の健康課題と対比することで、本邦の島嶼の健康問題が明確化できたのではと考えている。

## 6. 社会への大学院GP活動の情報発信

国内外における会議や学会、研修などで、大学院GP活動の現状を報告<sup>9-17)</sup>し、学際的交流を推進している。具体的には、大学院の学生は島嶼に関係する国内外の学会<sup>9-17)</sup>にて、研究活動の発表を行い、島嶼看護に関する学問的視点で研究者とのディスカッションを通して学問的な情報発信を行っている。また、随時大学院GP活動をHP(日本語版・英語版)<sup>7)</sup>に掲載し、さらに国際・国内シンポジウムを開催することで、国内外へ情報の発信を行っている。

## IV. 今後の展開と課題

3年間のプログラムの評価について、学内の自己点検評価委員会や外部評価委員会にて、プログラム全体の到達度、さらに科目の内容や到達目標、教育方法(遠隔教育も含めて)、学生の到達度や満足度、教員評価など含めて多面的に評価を行う必要がある。これまでに外部評価委員会を毎年1回開催し、学内の教員と学外の有識者による評価が行われている。そこでは、どのような能力を養っていくのか明確にすることが問われている。

文部科学省の中央教育審議会では、博士前期課程を高度職業人養成、後期課程を研究者養成機関と位置づけている。図2に本プログラムの人材育成能力を示した。本プログラム終了後に期待される人材像として、前期課程では、保健医療福祉分野で活躍する管理者やケア開発者などで、博士後期課程では島嶼保健看護の教育研究指導者などである。博士前期課程では、実践指導・調整能力、ケア開発能力、実践的研究能力が必要で、博士後期課程では、教育指導能力や研究指導能力が必要である。これらの評価方法として最終的には学位取得を目指した課題研究並びに特別研究Ⅱによる論文審査や総合科目試験による評価を行う予定である。

島嶼看護学はまだ学問として構築されていないが、学生の研究活動を通して、さらに、そこからの研究の積み重ねによって、培われていくものと考えている。本プログラムは、その意味でも島嶼看護学構築の試案に向けての第一歩を踏み出したのではないかと考えている。そして最終的なプログラム評価は、修了した学生が大学院で培ってきた専門的能力を活かして、島嶼地域の保健看護の課題を解決していくリーダーとして活躍していくことが最終的なアウトカム評価になりえると考えている。そして、島嶼地域でその能力を発揮できるためには、資源やマンパワーの少ない島嶼地域では、自分一人だけの力ではなく、島嶼住民とともに相互に支えあいながら島嶼の特質を活かした島嶼性アプローチが必要になってくるであろう。

今後の課題として、プログラム終了後の島嶼看護領域における大学院教育・研究活動の継続や推進、島嶼看護の人材育成のためのコンピテンシーの明確化、そして学問としての島嶼看護学の構築、そしてこれらの成就のためのマンパワーやハード面のコストなど、これまでにない新しい学問領域に付随する課題は山積している。しかし、この課題は島嶼県沖縄ゆえに背負わざるを得ないのであり、これは沖縄県立の看護大学の使命の一つであり、今後の一層のたゆまない努力と組織的な取り組みが必要であろう。

#### Ⅳ. おわりに

大学を挙げての組織的な取り組みである「島嶼看護の高度実践指導者の育成」プログラムの実践を通して、本大学の学生、教員ならびに職員、そして宮古島をはじめとした県内外の離島、さらに太平洋島嶼地区での保健医療職者に対して、「島嶼看護」の一石が投げられ、その波及の波が起こったばかりである。その波を絶やさない努力並びに研鑽の積み重ねが、さらなるプログラムの発展につながられるのではと期待している。

#### 引用文献

- 1) 組織的な大学院教育改革推進プログラム(2010): <http://www.jsps.go.jp/j-daigakuin/index.html>(2010年11月11日現在).
- 2) 神里みどり、當山富士子、玉城清子、野口美和子(2009): 大学院教育改革プログラム: 島嶼看護の高度実践指導者の育成、平成20年度成果報告書、沖縄県立看護大学大学院.
- 3) 神里みどり、當山富士子、玉城清子、野口美和子(2010): 組織的な大学院教育改革推進プログラム: 島嶼看護の高度実践指導者の育成、平成21年度成果報告書、沖縄県立看護大学大学院.
- 4) Midori Kamizato, Fujiko Touyama, Kiyoko Tamashiro, Miwako Noguchi(2009): Program for Enhancing Systematic Education in Graduate School 2008-2010, Outline of New Graduate Program, "Development of Advanced Nursing Specialist in Islands Nursing", Okinawa Prefectural College of Nursing.
- 5) 神里みどり、大川嶺子、知念久美子(2010): 組織的な大学院教育改革推進プログラム: 島嶼看護の高度実践指導者の育成、島嶼保健看護実習報告書(海外実習: グアム・サイパン・テナアン)、2010年2月15日(月)~19日(金)、沖縄県立看護大学大学院.
- 6) 神里みどり、大川嶺子、知念久美子、謝花小百合、田島瑞穂(2009): 組織的な大学院教育改革推進プログラム、2009 American Pacific Nursing Leaders Council Conference 参加報告書、沖縄県立看護大学大学院.
- 7) 平成21年度組織的な大学院教育改革推進プログラム(2010): 島嶼看護の高度実践指導者の育成 [http://www.okinawa-nurs.ac.jp/gp/gp\\_top.html](http://www.okinawa-nurs.ac.jp/gp/gp_top.html)(2010年11月11日現在).
- 8) 神里みどり、野口美和子、當山富士子、玉城清子(2009): 平成20年度大学院教育改革支援プログラム「島嶼看護の高度実践指導者の育成」公開講演・特別講演資料集、テーマ: 生活文化に根ざした島嶼看護の実践を目指して、沖縄県立看護大学大学院.
- 9) 知念久美子、野村幸子、盛島幸子、美底恭子、糸数仁美(2010): 看護職が認識した沖縄における地域文化的看護体験、文化看護学会第2回学術集会(千葉).
- 10) 神里みどり、當山富士子、野口美和子(2010): 沖縄における地域文化的看護体験にみる文化看護学の研究課題、文化看護学会第2回学術集会(千葉).
- 11) 野村幸子、知念久美子、仲宗根洋子(2010): 本邦の文献にみる島しょ看護における現状と課題、日本ルーラルナースング学会、第5回学術集会抄録集「人々の暮らしに寄りそう看護活動」、p 36、日本ルーラルナースング学会(長崎).
- 12) 知念久美子(2010): 沖縄県A離島診療所の看護活動の課題、日本ルーラルナースング学会、第5回学術集会抄録集「人々の暮らしに寄りそう看護活動」、p 38、日本ルーラルナースング学会(長崎).
- 13) 美底恭子、大湾明美、野口美和子(2010): 離島診療所看護師の高齢者への内服自己管理の支援の実態、日本ルーラルナースング学会、第5回学術集会抄録集「人々の暮らしに寄りそう看護活動」、p 39、日本ルーラルナースング学会(長崎).
- 14) Kumiko Chinen(2010): The Issue for Developing of Supporting Remote Islands at the Local Core Hospital in Okinawa Japan, 9th Conference of the Canadian Rural Health Research Society, Rural Health: Connecting Research and Policy, PROGRAM AND BOOK OF ABSTRACT, p72, (Canada).
- 15) Midori Kamizato, Fujiko Toyama, Kiyoko Tamashiro, Miwako Noguchi(2010): The Developing Islands Nursing Program for Graduate Course in Okinawa, Japan, 9th Conference of the Canadian Rural Health Research Society, Rural Health: Connecting Research and Policy, PROGRAM AND BOOK OF ABSTRACT, p75, (Canada).
- 16) Kaori Shimizu, Midori Kamizato(2010): Supporting Nurses in Remote Islands through Videoconference System Okinawa, Japan, 9th Conference of the Canadian Rural Health Research Society, Rural Health: Connecting Research and Policy, PROGRAM AND BOOK OF ABSTRACT, p76, (Canada).
- 17) Yoko Nakasone, Kumiko Chinen, Sachiko Nomura, Midori Kamizato, Miwako Noguchi(2010): The Characteristic of Island Nursing, 9th Conference of the Canadian Rural Health Research Society, Rural Health:



Connecting Research and Policy, PROGRAM AND  
BOOK OF ABSTRACT, p81, (Canada).

## Program for Enhancing Systematic Education in Graduate School —Development of Advanced Nursing Specialist in Islands Nursing—

Midori Kamizato<sup>1)</sup> Kiyoko Tamashiro<sup>1)</sup> Fujiko Touyama<sup>1)</sup>  
Miwako Noguchi<sup>1)</sup>

### Abstract

**Purpose:** We report the outline for Program for Enhancing Systematic Education in Graduate School “Development of Advanced Nursing Specialist in Islands Nursing” granted by ministry government of Japan. We will suggest our program’s agenda and perspective in future.

**Outline of Program:** This course will be establish as one education research area of the Health and Nursing Science, Graduate Program of the Graduate Program Department. The “Islands Health Nursing” course will be included in the leading healthcare and nursing field available in both Master’s and Doctor’s Program for Health and Nursing science Research and Specialization. In this course, undertaken to promote the community care cooperation where islands collaborate to solve problems as a whole. We accept two students in the master’s course and one in the doctoral course. The following 9 new subjects were established: Island Health Nursing Theory I · II , Seminar, Practicum, Problem Study, Special Study II , Community Culture and Nursing Theory, Community Cooperation among Multi-profession Theory and International Nursing in Island. Miyako Island will be the base for human resource development. Teaching methods are Integrated education of training in the field and distance education by using a video conference system. The students have training in global and local view point through practicum or field work in the Pacific Islands or domestic Islands in Okinawa.

**Actual approach:** We have 7 students in this Island Nursing course. They have been studying 9 new subjects, including activities of education or research, practicum or seminar in Pacific Islands and domestic islands, giving presentation their own researches and exchange in outside or inside countries of academic conference. The students are training their competency of practicum, education and research through those activities

**Future agenda and perspective:** We need to search to solve the agenda that evaluation of program for three years, continue and promotion after finishing the program, construction for academic of Island Nursing.

**Key words :** islands nursing, advanced nursing specialist, personal training

---

1) Okinawa Prefectural College of Nursing